

水産総合研究センター再編整備事業（種苗生産施設）について

1 目的

種苗生産業務の効率化を図るとともに、効果的な栽培漁業を推進するため、「千葉県水産総合研究センター施設の再編整備計画」及び「千葉県県有建物長寿命化計画」に基づき、種苗生産施設の再編整備を実施する。

2 整備の方向性

(1) 業務の集約化

種苗生産業務の集約化による作業効率や生産技術の向上により、良質な種苗の安定生産を図る。

➡ 海産魚類種苗生産（種苗生産研究所（富津））、アワビ種苗生産（アワビ・ヒラメ中間育成施設）、アユ種苗生産（内水面水産研究所）の一元化 など

(2) 新技術の導入

新技術の導入により、種苗の質の向上を図るとともに、省力・省コスト飼育による環境負荷の低減を目指す。

➡ 緑色LED設備や半閉鎖循環式システムの導入（種苗生産研究所（富津）） など

(3) 新規魚種の実験

収益性の高い新規魚種を導入し、より効果的な栽培漁業を推進する。

➡ トラフグを生産するため、新たな飼育棟を整備（種苗生産研究所（富津））

3 事業スケジュール

(1) 種苗生産研究所（富津・勝浦）

令和2年度	基礎調査
3～4年度	基本設計
4～5年度	実施設計
6年度～	工事

(2) アワビ・ヒラメ中間育成施設

令和2年度	基礎調査
5年度	基本設計
6年度	実施設計
7年度～	工事

